

新入会員オリエンテーション

大阪代協、29名が参加

大阪代協(黒石光寿会長)は12月5日午後2時から同代協会議室で新入会員オリエンテーションを開き、新入会員14名、役員・支部長など15名の計29名が参加した。

オリエンテーションに先立ち黒石会長が挨拶し、「大阪代協は全国で会員数が最も多く、55年の歴史を持っています。会員同士の情報交換や保険会社各社の情報、タイムリーな情報提供など代協を大いに活用してください」と述べた。

新入会員の自己紹介では、「活動をする上でいろいろな情報提供をしてほしい」「分からないことばかりなので勉強していきたい」「先輩のみなさんに助けてもらいながらやっていきたい」などの意見や感想が出た。

オリエンテーションではまず、大阪代協の活動について、嶋康仁副会長が、①大阪代協の組織、②大阪代協の取組み、③各種委員会、④損害保険

大学課程、⑤代理店賠償、⑥国民年金基金などを紹介。続いて、全国損害保険代理業政治連盟について黒石会長(政治連盟代議員)が趣旨を説明。

日本代協の取組みでは、日本代協・小出富晴副会長(大阪代協相談役)が「代協の現状と課題(28年度版)」をもとに、解説。最後に、代理店事務処理の歴史を山中昭平相談役が説明した。



オリエンテーションのもよう

新入会員の自己紹介では、「活動をする上でいろいろな情報提供をしてほしい」「分からないことばかりなので勉強して